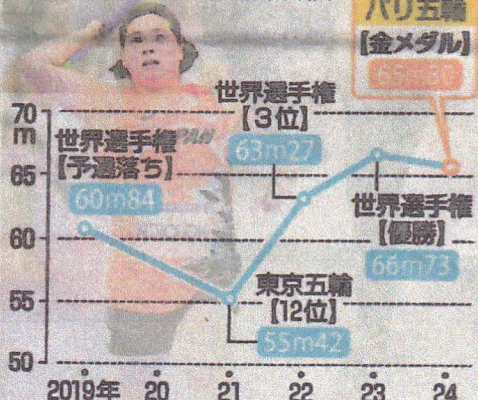


# 北口 1



女子やり投げ決勝 北口梨花の1投目=パリ郊外(共同)

## 陸上女子やり投げ 北口梨花の主要大会成績



## 65メートルでは満足できない

北口は声を詰まらせながら喜びを語った。(共同)

「メダルがすごく重く感じ。今季は苦しんで、自中でしっくりくるもの全然なかった。この状態メダルが取れるのか、ができるのかという不安があった。その不安が一抜けていくような気が

1投目で65斤超。集中できていたから全然緊張を感じること

### 一問一答

なく試合ができた。1投目はいつもの(最終)6投目ぐらい集中して臨んだ。思ったより飛んでほっとした。焦らずに助走しようと思つて、その通りにできた」

—2投目以降は。

「夢の中では70斤を投げられていた。もっと投げられると思つてずっと挑戦していた。金メダルを取つたら結構満足できるものなのかと思つていただけ、65斤ではまだ満足できない。また頑張る理由ができてきた」

—東京五輪からの3年を振り返って。

「東京五輪だけがをして、一から見つめ直すきっかけになった。世界陸上も含めて、いい結果がやっとなってきた。またもっと上を目指して頑張りたい」

—次の目標は。

「夢の中ではなくて、現実で70斤を投げたい。満足できない理由があるのとはとても幸せ」

## プロの視点

初っぱなにドンと投げられるのは強い選手の勝ち方。北口は1投目にマークした今季自己最高の65斤80で金メダルを取った。これまででは追い詰められてようやく気合が入っていたが、今回は違った。精神的に一段と成長したのではないかと。日本人が誰もでき

## 精神も成長 世界新期待

なかつたことを成し遂げ、本当に立派なもの。北口の1投目は腕がぴんと伸び、肘が正しい具合に固まっている。やりを手から離す時に大きな反発力が生まれ飛距離が伸びた。日本記録の更新も期待できる動きだったが、2投目の失敗で集中が切れてしまったようだ。

これからは金メダルは当たり前という意識を持ち、70斤台、世界記録更新を本気で目指してほしい。柔らかな肩甲骨周りと思われた体格があるのだから、さらにストイックに突き詰めていけば十分可能性はある。

決勝で海外勢は焦りから変な力が入り、記録を伸ばせていなかった。世界のレベル低下は否めない。67、68斤台はほとんど投げてもらいたくない、他の日本選手にも割って入ってほしい。

(男子やり投げ日本記録保持者)

みぞぐち・かずひろ 陸上男子やり投げの日本記録保持者。87年世界選手権で6位。89年に当時の世界記録にあと6センチ迫る87センチ60の日本記録を樹立。五輪は84年ロサンゼルス大会、88年ソウル大会に出場してともに予選落ち。現在は地元和歌山県白浜町で農業を営む。62歳。

